

令和7年度第2回駒来塾運営委員会

《日 時》	令和8年2月20日（金）午前10時～11時
《場 所》	小牧市役所 本庁舎4階 404会議室
《議 事》	(1) アンケート結果について (2) 次年度の各会場生徒数・新規塾生の募集について (3) 学習支援員・サポーターの募集について (4) その他
《出席者》	委 員：野田委員、西尾委員、山本委員、光部委員、梶田委員 (事務局)：川尻こども未来部長、野田こども未来部次長、瀬尾指導主事、余語副主幹、小川こども政策課長、若林青少年育成係長、岡野、舟橋指導員、武田指導員、
《傍聴者》	なし
《会議経過》	以下のとおり

1 あいさつ

- ・部長あいさつ（川尻部長）
- ・課長報告
山本様より問題集等寄贈の報告

2 委員・事務局紹介（事務局）

3 議 事

- (1) アンケート結果について
資料に基づき事務局より説明
- (2) 次年度の各会場生徒数・新規塾生の募集について
資料に基づき事務局より説明
- (3) 学習支援員・サポーターの募集について
資料に基づき事務局より説明
- (4) その他

4 その他

【質疑応答】

(1) アンケート結果について

(野田委員長)

子ども達のアンケートは満足度が高いが、「普通」と書いてあるところにも着目していきたい。そもそも勉強が苦手で、あまり行きたくないという子達もいる。その子達は気が進まない中、親に勧められてきてみた。塾に行くまでは不安だったけど、行って見たらわからなかった問題を理解できるようになった。なかなかいろいろな子がいるので難しいと思うが、このような経験を積ませしていきたい。

(山本副委員長)

個人によるが、こちらが教えようとする嫌がる子もいるし、逆に、質問がなかなかできなくて困っている子もいる。生徒との関係をまず作っていかないと、うま

くいかない。様子を見ながらじっくりということで考えている。1人で考えたいという生徒には、そのような支援をしてあげないといけない。

(野田委員長)

卒業しても使いたいという声もあったが、そのような子達に何か支援をしてあげられるような場所とか時間はあるか。

(事務局)

現段階では、駒来塾としては高校生対象のことは考えていないが、児童館や中央図書館に自習するスペースがあるので、紹介する。

(山本副委員長)

駒来塾に関しては、卒業生が来訪することはある。勉強を教えて欲しいというよりは、少し話をしたい感じ。気軽に寄れる場所があることはいいと思う。難しい問題を教えてもらうこともある。それくらいのサポートがいいかなと感じている。

(野田委員長)

個々の学力を先生方が把握して指導してくださり、大変ご苦勞をおかけしている。

(事務局)

支援員やサポーターが事前の打ち合わせで、あまり声をかけすぎてもいけなかったり、漢字ばかりしている子にそろそろ関係づくりもできてきたから他教科にも取り組むよう刺激をしてみようとか。他にも個々の生徒への対応について情報を共有してくださっている。

(山本副委員長)

塾が終わった後、10分ぐらい、互いに担当していた生徒の様子や学習内容を話している。次の週の始めにも担当者でミーティングをして、系統的な指導ができるよう配慮している。

(2) 次年度の各会場生徒数・新規塾生の募集・(3) 学習支援員・サポーターの募集について

(梶田委員)

次年度の各会場生徒数・新規塾生の募集について、会場により受け入れ可能人数が違うのはなぜか。

(事務局)

会場の広さや支援員・サポーターの配置可能人数、在籍している生徒の学力の実態などを鑑みて、塾長と相談の上、決めている。会場によっては2部屋借りられるところもあるので、応募人数によって検討していく。

(梶田委員)

今、どんどんバイトの時給が上がっているので、それに合わせて駒来塾も1200円

のところを1300円、1400円でも対応できるようにしていただけるのか。重い子達が多くなってきていると感じる。報酬を見ていると、この報酬でそれだけ責任を押し付けるかというような感じになりつつあるので、今後、支援員さんの報酬をどの程度変えたらいいのか、もし、頑張っていたら報いるような形でやっていただけるとありがたい。

(事務局)

内部でも、学習支援員、サポーターの報酬については議論をしている。すぐにはというのは他との兼ね合いもあるので難しいが、他事業とも関連させて今後も検討していく。特に支援員さんにつきましては、最初から同額となっている。サポーターは若干上がったが、他のアルバイトの時給も上がっていることもあるかもしれないので、そういったところ調査していく。すぐには難しい。

(梶田委員)

小学生向けの見学会について、今のところ、何人程度の応募があるか。

(事務局)

現在、13人の応募がある。面接や体験をして入塾するか見送るかを決めてもらう。この時期に申し込みをされれば、4月からの参加が可能となる。特に上の子が来ている場合には、下の子の入塾をはじめから希望されて見学会にきている。

(野田委員長)

実施要項では、対象者のところに、落ち着いて学習する環境が整っていない者、学習内容が理解できていない者、その他市長が適当と認めた者とあるので、そのような条項に当てはまる子達が親御さんと相談し応募していただいていると思う。そこをしっかり確認しなくてはいけないと思う。

(事務局)

面接の際、慎重に確認していく。

(梶田委員)

学習室の開放をするという話はいいと思うが、指導する先生にとっては、やはり負担が増える。打ち合わせをしている最中に、同じ会場に子ども達がいることで、やっぱり話せない内容が出てくるのではないかな。打ち合わせ自体もやりにくくなるのではないかなというのを懸念する。その辺をどう配慮していくか。

(事務局)

自習としての開放時間について、会場によって少し違いがある。2部屋あるところは別室で打ち合わせを実施。1部屋のところは18時10分くらいからの入室としている。

(野田委員)

子ども達のやる気があって勉強やっている姿がみられるのもそうだが、それ以外にも塾やってよかったと思うことがあれば、教えてください。

(事務局)

先日、寄付をいただいている山本さんが東部に見学にこられた。生徒が帰ってから、先生方と意見交換をした。先生方の熱い思いを聞けてうれしかった。学生は学生なりの思いを伝えてくれた。山本さんが来てくださったことはすごく先生方の励みになった。地道にやっているだけだが、理解して応援してくださっている方がいらっしゃることはありがたい。

(山本委員)

味噌の場合、卒業生が4月5月に来てくれると嬉しい。近況を聞かせてくれると本当にうれしくなる。

(4) その他

(光部委員)

北里は女子生徒がとても多いので、帰りのことを心配している。以前に迎えが少し遅れて待っている生徒を見かけた。1人で残すわけにはいけないので、それ以降は担当を決めて、最後の生徒が車に乗り込む、或いは自転車で走り出すところを確認してから支援員が帰るように配慮している。今のところ問題なくやっている。

4 その他

- ・ 小学生対象の駒来塾について：
寺子屋の今年度の状況について、事務局から説明
- ・ こども暴力防止法

【意見交換】

(山本委員)

寺子屋は、小牧山で実施しており、市内各学校から来ている。好評なため、定員になると締め切って人数を制限している。来年度は夏休みと冬休みだけか。

(事務局)

まず令和8年度に、夏休み、冬休みのみ。今後、駒来塾の小学生版ということで、拡大を考えている。小学生なので、中学生よりは早い時間になる。場所は、駒来塾の会場で実施できる。中学生の駒来塾の少し前の時間に1時間ぐらいであれば可能ではないか。塾長や現場の声も当然、今後調査し、運用を考えていきたい。

(梶田委員)

小学生と中学生の入れ替えの間、少なくとも、30分程度余裕がないと、そう簡単にポンポンと切り替わるのは難しいだろう。いいことだから、どんどん広げていくのは賛成。一方で、指導者の確保が必要。細かいところのケアを充実していかないと、どんどん疲弊感が広がっていくような気がしている。

(山本委員)

夏休み冬休みの寺子屋をもっと広げていきたいという思いはずっと前から思っている。スタッフが増えてくれば、広げていくことも可能だなとは思っている。

(梶田委員)

夏休み、冬休みの居場所づくりの一環として、いいと思う。児童クラブとの住み分けはどうなっているのか。高学年で参加する子の人数が少ないので、児童クラブ来ててもかわいそうだよという声が聞こえてくる。居場所としてあるけど、そこで1日いること自体が、とっても辛そうにして生活しているという声も聞こえてくる。同じような目的でやっていることがいくつかあって、選択肢があると良いが、1つ1つが効果的に回っているかというのも気になる。

(事務局)

児童クラブは、負担金をいただいている。親御さんの就労などが条件となる。

(光部委員)

圧倒的に低学年が利用。だから託児に近い。6年生が1人2人ぐらいしかいないこともある。夏休みの長い間、どうしても小さい子の面倒を見る形になって、自分のやりたいことはできてないのではないかなど。朝30分間学習をしてそのあとはほとんど遊びの時間になる。

(事務局)

目的がやっぱり違う。駒来塾の目的に合わせた小学校版のよさがある。児童クラブはまた別の目的があってやっている。小学生でも勉強したいというニーズがあるのであればそっちの方向で広げていくことを事務局として検討したい。

5 その他

次回 第1回委員会 令和8年7月ごろ予定